

バイオマス取組事例概要

《農林水産省農村振興局長賞》

- ・ 応募主体 岩手県気仙郡住田町
- ・ 都道府県・市町村 岩手県気仙郡住田町
- ・ 取組分野 木質ペレットボイラー等の導入

取組概要

林業関係者の共通理解のもと、林業循環型システム実現に取り組む。木質バイオマスエネルギービジョンを策定し、ボイラー等の新エネルギー利用を実践。

1万3,500haの町有林を保有する住田町では、造林・伐採から川下の製材・加工・建築まで、一連の地域林業システムが林業関係者の共通理解のもと構築されている。

平成11年の大水害を契機に、林地の保全と森林災害防止、安全な生活の確保、林地や工場残材利用と新たな雇用創出、環境問題への寄与を目的として、木質エネルギーの利用検討を本格化したところ。

「森林エネルギーのまち」の実現に向け、町民の啓発学習、工場廃材によるコージェネレーション事業、木質ペレットの活用、林地廃材等の原料化、等の実践を図っている。

○ 平成12年度

地域新エネルギービジョンの策定

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の補助を受け、木質バイオマスエネルギーの導入を中心とした、住田町地域新エネルギービジョンを策定

○ 平成13年度

木質ペレットボイラーの導入

新設の町立世田米保育園の暖房設備

木屑焚ボイラーの導入

三陸木材高次加工協同組合

○ 平成14年度

木質ペレットストーブの導入

公共施設数ヶ所

○ 平成15年度

木質ペレット製造

けせんプレカット事業協同組合が実施主体となり、木質ペレット製造施設を整備し、木質ペレットを製造
(平成19年度目標 1,000t/年)

